

## 国語科学習指導案

0200223262

教育学部 2回 三森彩乃

1. 単元名・教材名 論理の展開・生き物として生きる

2. 単元観

## ① 学習者観

当該生徒は、1年時に「未来をひらく微生物」、2年時に「モアイは語る—地球の未来」を用いて、言葉の意味を正確に捉えたり、事実や根拠を確かめながら筆者の意見を読みとったりするという学習を行ってきた。しかし、段落と段落の関係や文章全体を概観して読むという点ではまだ十分に力が付いているとは言えない状況である。また、説得力のある文章や自分の意見を述べる文章を書くことに関しては、ほとんどの生徒が苦手意識を持っている。

学級全体としては、人間関係から小グループが形成されているが、困っている友人を助けたり協力したりすることができる。学習時においても、グループ内の教え合いができています。

## ② 教材観

本教材の「生き物として生きる」は、生物学者である筆者が、機会と同じように生き物(人間)までも「思いどおりに」作ろうとすることに「歯止め」をかけ、人間も「生き物として生きる」暮らし方を考える必要があると説いた論説文である。全体的に客観的な表現で書かれているので、筆者の意見は指摘しやすい。文章を大きなまとまりとして捉えさせた後、根拠となる一文、そして語句へと着目できるようにしていきたい。また、一般的な意味と異なる文脈上の意味を与えられている語句に着目することで、その背景となる筆者の意図や考えを明確に捉える力を学ぶこともできる。さらに、筆者の意見に対して賛成、反対、部分賛成、部分反対などの意見が出ることが予想される。筆者の、意見を支えるしっかりとした根拠の述べ方を参考にしつつ、この意見に対して、同様に論理的な意見文を書くことができるようにしていきたい。以上のことから、読むことと書くことを関連させ、意図的・計画的に指導することが可能な教材であると言える。

## ③ 指導観

本単元は、第1学年「真実を語る」、第2学年「事実と意見」に連なる単元である。これは、説明文、論説文読解の技能を身につけるとともに、自分の意見を表現する方法を学び、書くことを通して意見の確立を目指そうとする単元となっている。第3学年配当の本単元は、「生き物として生きる」という論説文と、「説得力のある文章を書こう」という二つの教材で構成されている。「生き物として生きる」では、根拠や理由に着目しながら論理の展開を捉えること、筆者の考えをもとに自分の意見を持つことをねらいとしており、学習指導要領の、読むことイ「文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。」エ「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと。」に関わるものである。続く「説得力のあ

る文章を書こう」は、主張や提案に説得力のある文章を書くことをねらいとしており、学習指導要領の書くことイ「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。」に関わるものである。

本教材「生き物として生きる」においては、意味段落に分けたり、その根拠を考えたりすることによって、内容を概観する力をつけさせたいと考える。また、これまで筆者の主張を読みとり納得していた部分を、根拠として使われている語句にこだわって読み返すことで、効果的な意見文の表現法を身につけさせたい。さらに、班での学習を生かして、文章構成について班内で意見交流しながら自分の考えを確かなものにさせたり、意見文を書いた後、班内での交流を通してさらに理解を深めさせたりしたい。

### 3. 単元の学習目標

- ・根拠や理由に着目して文章を読み、論理の展開を捉える。
- ・筆者の考えをもとに、生命と科学技術のあり方に関して考えを深め、自分なりの意見を持つ。
- ・根拠を明らかにし、客観的な視点から見直して、説得力のある意見文を書く。

### 4. 単元の評価基準

#### 《国語への関心・意欲・態度》

・筆者の主張を読みとり、生命と科学技術のあり方について考えようとしているか。

#### 《話すこと・聞くこと》

・友だちの考えに耳を傾け、課題解決のためにそれを生かし合っているか。

#### 《書くこと》

・根拠を明らかにし、説得力のある意見文を書けているか。

#### 《読むこと》

・根拠や理由に着目して文章を読み、論理の展開を理解しているか。

・筆者の考えをもとに、生命と科学技術のあり方に関して考えを深め、自分なりの意見を持てているか。

### 5. 単元の学習計画（全 11 時間）

#### 第一次

- ① 文章を読んで感想を述べ合い、内容について話し合う。(1 時間)
- ② 文章のまとまりに着目して読み、段落に分け、その根拠について話し合う。(1 時間・本時)
- ③ 「作る」という考え方における「機械」と「生き物(野菜)」の違いについて、どのように述べているかを読みとる。(1 時間)
- ④ 「作る」という考え方における「機械」と「人間」の違い、「遺伝子」の違いについて、どのように述べているかを読みとる。(1 時間)
- ⑤ 筆者の主張を読みとり、その根拠を捉える。(1 時間)

#### 第二次

⑥筆者の主張に対し、一つの立場から根拠を明確にして意見文を書く。(5時間)

⑦友だちと意見文を読み合い、感想を述べ合う。(1時間)

6. 本時案

① 本時の目標

- ・文章のまとめりやキーワードに着目して読み、段落に分けることができる。
- ・班内で自分の考えを分かりやすく述べ、また友だちの意見から新たな考えを得ることができる。

② 本時の評価基準

- ・根拠を持って文章全体を五つのまとめりに分け、その根拠について班内で意見を積極的に交流しているか。
- ・ワークシートに自己評価を記入しているか。

7. 本時の展開

学習課題	学習活動	学習指導 (教師の活動)	備考
導入 5分	1, 前時の学習内容の確認をする。	1, 生徒から出た感想をもとに、簡潔にすませる。	
展開 15分	2, 文章を大きく三つのまとめりに分け、さらに本文部分を三つに分ける。 分けた理由をワークシートにまとめる。	2, 文章を導入・本文・まとめの三つに分け、さらに本文部分を三つに分けることを伝え、黙読させながら分けさせる。 机間指導により、自分の考えを明確に持たせるようにする。	ワークシート
13分	3, ワークシートに記入したことをもとに、班内で考えを交流する。	3, 班内での話し合いの進め方やまとめかたについて説明する。 根拠をもってまとめりに分け、自分の考えを述べているか、友だちの意見をしっかり聞いているかに注意する。	机を班ごとに並べる
7分	4, 文章がどのように分けられるかを確認する。	4, 各班の生徒に発表させながら板書し、なぜ、〈導入①～④〉〈本文1⑤～⑧〉〈本文2⑨～⑫〉〈本文3⑬～⑮〉〈まとめ⑯⑰〉のように分けられるか説明する。	もとの形に戻す
まとめ 10分	5, 今日の授業を振り返り、班内での話し合いや発表で考えたことをワークシートに書き込む。	5, 自己評価の観点を明確に示す。なかなか進まない生徒には具体例を示す。	ワークシート